

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北海道)		住宅販売会社（経営者）	・今後、北朝鮮問題が解決することになれば、株式市況が暴騰することになり、建築市場も大いに盛り上がる。
		商店街（代表者）	・ホテルの予約状況を見る限り、北海道の秋観光は好調に推移する。外国人観光客の入込も順調に推移しており、大きな政変や天災がない限り、景気はやや良くなる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・相変わらず中国人観光客による売上が多く、売上全体の30%を超えようとしている。国内観光客は売上ほど入込が増えているように感じられないが、やはり東日本大震災の悪夢が薄らいできていることがプラスに働いている。また、現政権の経済政策も効果が出始めている。売上は前年比109%、前々年比115%ととても良い状況にあるため、今後についてはやや良くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・道外からの入込が順調に伸びていることに加えて、外国人観光客の入込も大きく伸びているため、しばらくは来客数の増加傾向が続く。
		百貨店（営業販売担当）	・前年の9～12月は8月の台風被害の影響で大幅に来客数、売上が減少したため、前年からの売上回復が見込まれる。ただ、客の買物の傾向は変わりつつある。
		スーパー（企画担当）	・作物の出来が良く、前年のような台風被害もないため、今後についてはやや良くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・コンプ漁、サンマ漁が前年よりも良い見込みであり、沿岸部の店舗の売上も一部市町村で回復傾向にあることから、今後についてはやや良くなる。ただ、金額的に大きいサケ、マスの漁が不漁になれば、状況が変わることになる。
		乗用車販売店（経営者）	・当地区の軽自動車を除いた新車市場は依然として堅調である。また、一時停滞していた車種の受注も商品強化とともに上向きとなっていることから、今後の販売量の増加が期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車効果が続いていることから、今後についてはやや良くなる。ただ、大幅に景気が上向くことまでは考えにくい。
		旅行代理店（従業員）	・例年よりも間際の受注件数や問い合わせが増えているため、今後についてはやや良くなる。
		通信会社（社員）	・定例となっている人気商材の発売を控えているため、今後については販売量、来客数共に伸長が期待できる。
		観光名所（従業員）	・8月は天候の悪い日が多く、利用乗降客数が激減したが、少ない好条件の日にはとても多くの利用がみられるなど、全体的には勢いが感じられるため、今後についてはやや良くなる。また、観光客の旅行形態もこれまでの団体旅行中心のものから、個人旅行へのシフトが顕著にみられる。個人客化が進むと客単価が上昇することになるため、今後の利益率の改善も見込める。
		美容室（経営者）	・客の来店頻度が、若干ではあるが上昇しているため、今後の売上増加が期待できる。
		商店街（代表者）	・客との話の中で、年金の支給額の引下げや消費税率の引上げなどで将来不安が拭えないため、欲しいものがないわけではないが、心配でお金を使えないという話を聞くことが多い。
		商店街（代表者）	・今後についても、今のまま変化することなく推移する。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・やや持ち直しの動きが出てきていることから、2～3か月前と比べると景気は上向いているが、景気が今よりも上向くことまでは考えにくい。今後とも変わらないまま推移する。
		百貨店（売場主任）	・8月の数値だけをみると、好転の兆しがかげえるが、はっきりとした景気回復傾向と判断するにはまだ材料不足であるため、今後大きくは変わらない。
	百貨店（担当者）	・地方百貨店については依然として売上のマイナストレンドが続いており、回復の兆しはみえていない。各店では様々な施策でプラスアルファを見込むものの、トレンドを維持するのがやっとの状況であり、今後とも景気は変わらない。	
	百貨店（役員）	・希望的観測もあるが、現在が最悪の状態のため、これ以上景気が悪くなることは考えにくい。	
	スーパー（店長）	・来客数の前年割れが続いていることから、今後とも景気は変わらない。	
	スーパー（店長）	・景気が変動するような要因が見当たらないため、今後とも変わらない。	
	スーパー（店長）	・景気の変わる要因がないため、今後とも変わらない。	

スーパー（店長）	・ここ数年のディスカウントショップの出店がある程度落ち着いてきたこともあり、当地の状況を踏まえるとこの先1～2年の売上は現状のまま推移することが見込まれる。
スーパー（役員）	・人口減少、高齢化の影響もあるが、地方では可処分所得が減少しており、将来不安からお金が貯蓄に回っているため、今後も景気は変わらない。
コンビニ（エリア担当）	・特売品や新商品などの動きは良いが、来客数の底上げにつながる要素に乏しく、売上の上乗せにつながらない。競合店が閉店しない限り、売上の増加しない状態が今後も続くことになる。
コンビニ（エリア担当）	・観光が一気に下火になることはないため、今後も変わらない。また、風力発電所の運転開始を控えて、貿易がある程度上向きになってきていることは好材料である。
コンビニ（エリア担当）	・8月も天候に大きく左右された月であった。特に天候条件が悪い日の減少が目立つなど、景気の底堅さを感じられない状況にあるため、今後も変わらない。
コンビニ（店長）	・セール品や低価格商材を購入する客が目立つなど、客の買い控えが感じられるため、今後も景気は変わらない。
衣料品専門店（店長）	・来客数が増えてこないため、売上が増える見込みがない。
乗用車販売店（経営者）	・今後はしばらく新型車の予定がなく、地場産業の動向も予測とそれほど大きく変わらない状況にあることから、今後の景気の大きな変化は見込めない。
乗用車販売店（従業員）	・最低賃金が10月から引上げられるが、高額商材を取り扱っている当社の業績にはあまり影響が生じない。
高級レストラン（経営者）	・資材や材料の価格が上がり続けている。天候も不安定で夏以降の野菜の価格高騰も懸念される。また、じわじわと物の値上がりが続くなかで、消費者の給料が上がるわけでもないことから、生活が苦しくなり、消費もますます落ち込むことが懸念される。景気が上向きような材料は1つもないため、今後も変わらないまま推移する。
高級レストラン（スタッフ）	・予約状況が例年並みに戻ってきているが、宣伝ほどの手ごたえが感じられない。年配の顧客からは、老後や自身の認知症リスクなどを心配する声が増えてくるほか、近隣国のミサイル発射や想定外の風水害などの災害を心配する声も聞こえてくる。レストラン利用率の高かった60歳以上の余裕のある世代の利用も減少しており、従来、当てにしてきた年齢層の消費動向も一段ずつ下がってきている。
観光型ホテル（役員）	・国内客を中心に予約状況が芳しくないため、今後も景気は変わらない。
旅行代理店（従業員）	・繁忙期に入り、3か月前よりも動きが良くなっているが、販売量が微増にとどまるなど、この先2～3か月で景気が大きく上向きような要素が感じられない。
旅行代理店（従業員）	・店頭に来店する客が減っている。そのため、徐々に景気が悪くなるという状況は今後も変わらない。
タクシー運転手	・乗務員不足が解消される目途がないため、来月以降も同じような状況が続く。
タクシー運転手	・今後については、秋のイベントなども行われるが、需要の増加までは望めない。
観光名所（職員）	・観光施設の来客数が前年に比べて増加傾向にあるなど、引き続き好調に推移していることから、今後についても景気は変わらない。
美容室（経営者）	・災害もみられず、基幹産業の動向も悪くはないが、あまり外的な要因の影響を受けることのない業種であるため、良くも悪くも景気に変化はないとみられる。
美容室（経営者）	・政治的なことなどから、個人消費について景気が悪くなることはあっても、良くなるようなことはない。景気が上向きような兆しも全くない。
商店街（代表者）	・秋は観光客などの増加を期待できるような大きなイベントもなく、冬の準備のために買物なども控え気味となるため、例年どおりに推移することになる。8月に比べて景気が上向きような要因も見当たらない。
商店街（代表者）	・冬になるにつれて、客足がまばらになるため、今後についてはやや悪くなる。
スーパー（企画担当）	・催事などの売上動向は天候に左右される面が大きいので、今年のお盆商戦は苦戦気味であった。その一方でお盆商戦後の売上動向もパツとしない。秋商戦に向かう足元の状況にあまり良い材料が見当たらないため、今後も景気は変わらない。
スーパー（役員）	・野菜の高値が続くことが見込まれるため、今後の客の買物動向に影響が生じることが懸念される。

	衣料品専門店（店長）	・秋物商材など、先物の稼働が鈍いことから、このまま冬まで客の財布のひもの固い状況が続く。
	家電量販店（店員）	・今後については、7月の猛暑による特需の反動が懸念される。
	乗用車販売店（従業員）	・今後については、車検の対象台数が少なくなり、尻すぼみになることが懸念される。
	自動車備品販売店（店長）	・冬タイヤの早期販売が進んでいる分、9～10月の冬タイヤ販売が若干低迷することが懸念される。
	その他専門店〔造花〕（店長）	・政情不安のため、今後の景気はやや悪くなる。
	高級レストラン（スタッフ）	・国内外の情勢不安を受けて、客が消費を抑える傾向がみられるようになってきたことから、今後の景気はやや悪くなる。
	観光型ホテル（スタッフ）	・地元球団の成績が不振なため、レギュラーシーズン、プレーオフ共に宿泊客の動員が見込めない。
	旅行代理店（従業員）	・下期に入ると地元空港の中型機での運航が減り、それに伴い外国人観光客などの入込も減ることになる。ただ、修学旅行などの地元団体客の動きが活発になる時期でもあるため、これからオフシーズンに向かうなかでの観光需要喚起が課題となってくる。
	旅行代理店（従業員）	・冬場に向けて旅行需要が減少することになるため、今後についてはやや悪くなる。
	タクシー運転手	・お盆を過ぎてから、予約状況が少なめで推移しており、問い合わせ件数も若干少なめであることから、今後についてはやや悪くなる。
	タクシー運転手	・人口減少の影響がじわじわと出てきていることで、様々な業種の景気が悪くなっており、当業界にもその影響が生じている。2～3か月の短期間で景気が大きく変わることはないため、景気が改善することを考えにくい状況であり、今後についても同様の状態が続く。
	タクシー運転手	・前年は北海道新幹線の開業効果がみられたが、この先への期待感を持っていないため、今後は地域全体の景気回復を期待しつつ、客に対するより一層の働きかけについて検討することが必要となる。観光客や地元客の動きも以前とは変わってきている。
	通信会社（企画担当）	・9月は強力な新商材発売に伴う買換え需要が見込まれるが、他社への流出を危惧する声も大きく、厳しい販売動向が見込まれる。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・観光最盛期が終了することになるため、今後については輸送量の減少が見込まれる。
	住宅販売会社（経営者）	・客の所得が増加していないことに加えて、北朝鮮のミサイル問題などもあり、将来に対する不安と不透明感が強まっていることから、今後についてはやや悪くなる。
	x	*
	*	*
企業動向関連 (北海道)	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・工期遅れなどで仕事の時期がずれ込んできているが、年度末までの受注量は決まっているため、これから忙しくなることが見込まれる。最近では人手不足も加速し、人材確保に困窮しており、これから東京オリンピックに向けての工事が活発になれば、人材確保が一層厳しくなることになる。また、エネルギー、酪農、農業関連などは補助金などの効果もあり、今後、受注量が増えることが見込まれる。
	食料品製造業（従業員）	・8月は他社の夏物商材に小売店の棚割で良い場所を取られたが、秋には元に戻っていることが見込まれる。
	輸送業（営業担当）	・8月は台風も少なく、ここまで良好な天候で推移していることから、今秋の農作物収穫に期待ができ、関連商材の輸送、保管が増えることになる。
	食料品製造業（従業員）	・季節的に売上は増えるとみられるが、前年よりも景気の悪い状況が続いていることから、今後も変わらないまま推移する。
	家具製造業（経営者）	・近隣諸国との軍事的なリスク、内政の不安など、マイナス要素が多いため、市場の好転は考えにくい。
	建設業（経営者）	・今年度の完成工事に計上できる案件の受注がほぼ終了し、土木、建築共に工事の稼働はピークを迎えており、施工能力の限界に近づいている。型枠工、鉄筋工なども恒常的に不足している状況が続いている。また、前年の災害からの復旧工事では、河川用のブロックの製造が間に合わず、工期が非常に厳しくなっている。今後は来春の4～6月の端境期対策の受注に力を入れることになる。
	建設業（従業員）	・民間工事や公共工事の今年度発注物件は出そろったとみられるため、今後もこのままの状態が継続する。

	建設業（役員）	・引き続き民間建築工事の引き合いが多いものの、現場管理者の不足から見積参加を見合わせるケースが発生しているなど、人的な制約から今後の受注が頭打ちとなることは否めない。
	輸送業（支店長）	・農産物輸送の繁忙期であるものの、極端に引き合いが増えているわけではないため、今後も引き続き苦戦することになる。
	金融業（従業員）	・公務員給与や最低賃金の引上げなどにより、所得環境の改善が見込まれることから、個人消費は引き続き底堅く推移するが、観光関連と公共投資がピークアウトすることになるため、道内景気は3か月前と変わらないまま推移する。
	司法書士	・今後の傾向としては、例年のように冬期間に入る前まで、不動産関連や建物関連における取引が若干増加することになる。
	司法書士	・不動産取引が活発化するには、景気回復を実感できることが必要であるが、景気浮揚策もあまり見当たらないため、今後も何となくもやもやとした状態で推移することになる。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・現状以上に景気が良くなるとは考えにくい。災害復旧関連需要は、この先半年から1年程度で終息するとみられ、その後が心配である。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・慢性的な人手不足というマイナス要素はあるが、災害復旧需要の継続が見込まれるため、今後も景気は変わらない。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・今後については、あまり大きな伸びは期待できない。
	通信業（営業担当）	・今後の業績について、これまでよりも慎重な数値を掲げる企業が身の回りで増加しているため、今後についてはやや悪くなる。
	司法書士	・これから秋に向かって、建物の新築、土地の売買が増加することは考えにくい。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・同業他社のみではなく、取引先からも今年度になって売上や損益が下降気味との話を聞く。当業界は他業種の不景気のあおりを直に受けるため、少なくとも年内の景気はかなり厳しくなる。
	x	-
雇用 関連 (北海道)	新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・今年は天候にも恵まれたことで、小麦で前年以上の収量が確保されるなど、畑作が好調に推移している。今後、収穫が始まるじゃがいも、ビートなどの主要産品の生育も順調なことから、農業関係者の消費性向が上向き、雇用にもプラスになることが見込まれる。
	人材派遣会社（社員）	・今後も、軽作業系、営業・販売系で人材ニーズの高い状態が続く、求人件数が増加することが見込まれる。
	求人情報誌製作会社 （編集者）	・企業の求人意欲が強く感じられるが、それが求人広告件数に反映されておらず、伸びがみられないため、今後も変わらないまま推移する。
	求人情報誌製作会社 （編集者）	・今後も、アルバイト・パート求人の横ばい傾向、正社員求人の増加傾向がしばらく続く。
	求人情報誌製作会社 （編集者）	・企業の採用意欲は高いものの、従業員の所得はあまり上がっていないため、今後、個人消費が上向くことまでは考えにくい。
	職業安定所（職員）	・月間有効求職者数が前年を下回り、月間有効求人数が前年を上回る傾向が今後も続く。
	職業安定所（職員）	・家電量販店の進出や地域を代表する大型小売店の体制補強の動きを受けて、まとまった数の求人が申し込まれるなど、人手不足分野に加えて、販売分野での募集活動が活発化しているが、求職者が減少しているため、今後の求人充足に懸念がある。
	職業安定所（職員）	・有効求人倍率が11か月連続で前年を下回ったことから、先行きに不透明感が生じている。
	学校〔大学〕（就職担当）	・景気が上向きであり、各企業の採用意欲も例年どおり高いが、新卒者を採りきれなかった企業であっても、9月一杯で採用活動を終了する企業が多いとみられる。その一方で、ネームバリューのない企業や学生に人気のない業種では、10月以降も採用活動を継続せざるを得ないため、2～3か月後も8月と比べて求人ニーズが大きく失速するとは考えにくい。
	求人情報誌製作会社 （編集者）	・人手不足が続いている飲食・販売系のアルバイト求人の勢いが漸減している。正社員の募集はまだ伸びているが、全体的には、これから前年を下回る傾向に転じるとみられる。

	職業安定所（職員）	・前年の北海道新幹線の開業効果の反動減を考慮すれば、観光関連の求人の動向は想定内であるが、水産加工業での漁業不振の影響や小売業での売上減などが続いているため、今後の景気はやや悪くなる。
x	-	-